

「原子力センター構想(仮称)」について

平成 24 年 7 月

東海村にとって原子力は、主たる個性の一つです。東海村のまちづくりを考える時、原子力を抜きにしてその将来像を描くことはできません。一方、その原子力は、今、大きな岐路に立っています。

そこで、東海村では、この地域において目指すべき原子力の将来像と、その原子力と地域社会が調和したまちづくりの将来像を併せて描くことにしました。

平成 22 年(2010 年)6 月、国や茨城県の関係者、原子力関係者、大学の関係者、村民などから構成される「東海村を原子力センターにする懇談会」を設置するとともに、その委員の一部から構成される「東海村と原子力の未来を考える有識者会議」を設置し、これまでに合計 11 回の会議を開催して議論を重ねてきました。また、一昨年と昨年の 9 月に開催した「東海村と原子力の未来を考えるフォーラム」などを通じて、村民の生の声も聴いてきました。そして、これらの結果を反映させたものとして、今般、「東海村と原子力の将来像」として「原子力センター構想(仮称)」(第 1 次案：意見公募用)を纏めつつあります。

本案については、7 月下旬から約 1 ヶ月間、村民の皆様から忌憚のない御意見を頂きたく意見公募を行う予定ですので、宜しくお願い致します。なお、意見公募に関する詳細は、総合政策部まちづくり国際化推進課(役場 3 F)までお問い合わせ下さい。

※ 今後、東海村(行政)は、原子力とまちづくりの総合的な将来ビジョンである本構想の率先牽引役、あるいはコーディネーターとしての役割を果たしていきます。

また、東海村と、茨城県や社会的・経済的・文化的・人的つながりをもつ周辺市町村、JAEA、大学などの関係機関が共に、本構想に掲げられた基本的な理念・視点を共有し、原子力と地域社会の新しい共存関係や、地域社会と国との新たな友好関係を構築し、国の理解を得て、本構想に基づく各種取組を協働で積極的に進めていきます。

※ 本構想は、平成 23 年(2011 年)2 月に策定した、東海村の総合的なまちづくりに関する行政計画である「第 5 次総合計画(2011-2020)」とも密接な関係があります。

「第 5 次総合計画(2011-2020)」の基本理念「村民の叡智が生きるまちづくり～今と未来を生きる全ての命あるもののために～」や、その基本理念に込められたメッセージである 3 つの基本目標は、「原子力センター構想(仮称)」の基本的な理念・視点と重なるものです。

また、「第 5 次総合計画(2011-2020)」の前期基本計画において定められた 7 つの行政分野の一つである「原子力とまちづくり分野」の「将来像」及び政策・施策は、「原子力センター構想(仮称)」を基礎として改めて策定することになっています。